

Q：中国語には濁音がないと習ったのですが、無気音を濁音で表記しているのはなぜですか？

A：よく言われることですが、「中国語には濁音がない」だから「(無気音を)濁音カナで表記するのは間違いだ」という意見があります。たしかに中国語は日本語とは違い、無声音と有声音、つまり声が出ているか否かではなく、無気音と有気音、つまり息が出ているか否かで語の意味を区別しています。そして中国語の無気音と有気音は、いずれも基本的に無声音(清音)なので、「中国語には濁音がない」という便宜的な説明がなされることがあります。しかし、語を区別する発音のしくみが異なることはたいへん重要なのですが、そのことを表現するのに「中国語に濁音がない」という言いかたをするのは正しくありません。

いわゆる「濁音」とは日本語で濁点のつくカナで表記される有声音を指しています。中国語の有気音は、息が出たあとから声帯が振動を始めるので、濁点のつかない清音カナで表記できる無声音と同種の音なので問題ありませんが、息の音の聞こえない無気音のほうは、声母の発音段階で必ず声(こえ：声帯の振動)を伴わない無声音だとは限りません。中国の北方と南方では差がありますが、普通話の母体となった北京周辺の発音では、無気音の声母(音節初頭子音)は閉鎖が柔らかく、母音に挟まれたときには容易に有声音となるほか、2声や3声の音節では自然に有声音に近づく傾向があります。たとえば、「这」zhè(4声)と「者」zhě(3声)とで比べてみてください。3声のほう明らかに有聲化(濁音化)しています。そして軽声の助詞などは、ほとんど有声音で発音されます。このことは「他的」tā deと「大的」dà deで比べてみるといいでしょう。これをいずれもタータと表記するのには抵抗がありますし不自然です。区別のしくみは異なっても、日本語の耳でも明らかにその違いがわかるのですから、これはターダ、ダーダのように表記し分けるのが適切な表記であると判断しました。さらには、日本語の清音(=濁点のつかないかなで表記される無声音)は、自然な発話では、語頭では弱い息の音を伴います。無気音をもし清音カナで表記すると、日本語で読んだときに、語頭では自然と息が出て、有気音になってしまう可能性が高いのです。中国語の教室でもときどき、無気音をうまく発音できずに、(語頭では)みな有気音に発音してしまうひとがいます。「打」をタァと、息を伴って発音して、なかなか直らない場合には、「ダァのように少し濁音のつもりで発音してみてください」という指導が有効

でした。反対に日本語の有声音（濁音）は、中国語の耳では、まず有気音には聞かれません。

以上のように、無気音を濁音カナで表記し分けることは、音声観察に基づく判断の結果であり、決してピンインをそのまま置き換えた処置ではありません。無気音を濁音カナで表記し分けることで、中国語を知らない人が日本語で読んでも、誤解を生まない程度にまで、中国語の音の区別を模倣できるとともに、結果として、中国語を知っている人なら、濁音のカナはピンインの類推から無気音を表記していることがわかりますし、またピンインをカナに置き換える必要がある場合にも類推がきくという利点も生まれます。さらには、英語に引かれた中国語のピンインからカナへの置き換えも容易になります。

余談ですが、ガイドブックを片手に旅行するひとが、ホテルのフロントやタクシーなどで行き先を告げたときに、日本語で素直に読んで、できるだけ近い中国語音となって誤解を与えないことが、中国語に限らず、外国語音のカタカナ表記を考える上でとても重要なことだと思いますが、如何でしょうか。

以上のような理由から、本ガイドラインでは、無気音を敢えて濁音カナで表記しています。